

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。
--

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	87.7%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	81.5%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	81.5%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.4%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	1.2%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.9%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	42.0%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	37.0%	27.4%
「30分より少ない」	7.4%	12.9%
「全くしない」	2.5%	5.7%

家庭学習については「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童が4割を占めていました。1時間未満の児童も4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

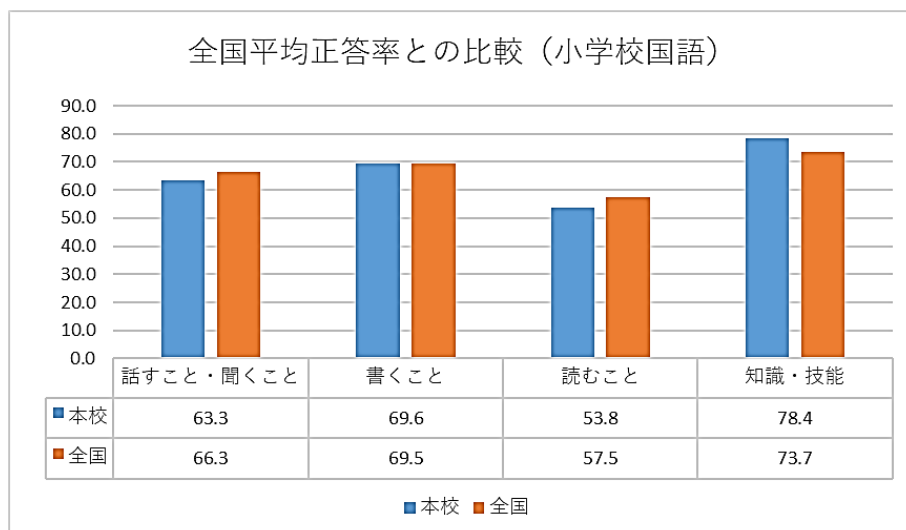
【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「自分には、よいところがある」と子どもたちが思えるように、自己肯定感や自己有用感を高める取組を実践し、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話をとおして、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほぼすべての問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 5.4 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 56.9% は、全国平均正答率 58.8% を 1.9 ポイント下回っており、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

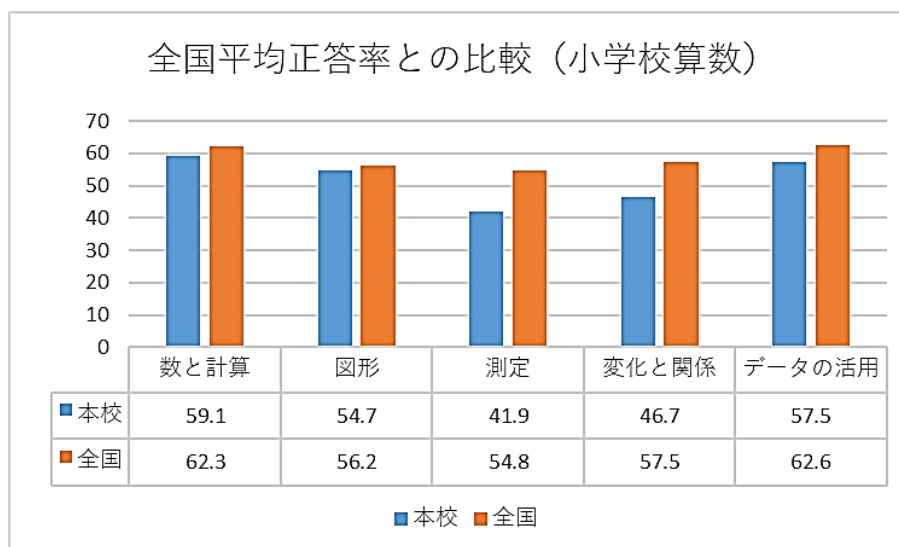
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。
- 単元でどんな力をつけるのかを明確に示すとともに、自分で読み取る力（一人学びができる力）をつけていけるようにします。また、文章中の言葉を根拠に正しく読みを深めていけるように、主語や述語、修飾語などの言葉の働きを確認したり、言葉を大事に扱ったりしていきます。
- 図書の時間を大事にし、様々なジャンルを読む時間を設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全ての領域において全国平均を下回っていたことから、主体的・対話的で深い学びを実現するために、さらなる授業改善が求められると捉えています。とくに、「変化と関係」領域の伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後は、情報を整理する力や必要な数量に着目する力、それらを式や言葉を用いて記述できる力を高めていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

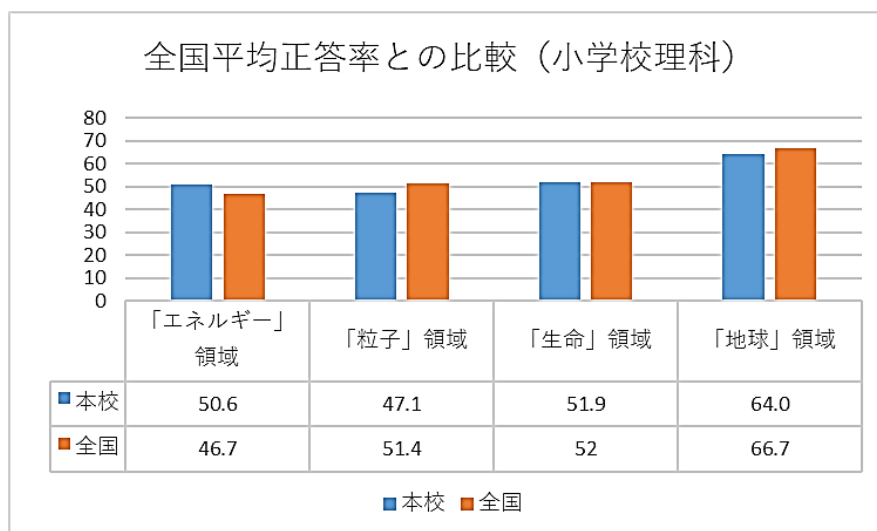
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

「エネルギー」領域が全国平均より高い結果でした。「粒子」領域、「地球」領域は全国平均を下回る結果でした。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、記述式の問題で全国正答率を上回る結果となりました。これは、日々の授業で説明したり、書いたりする活動を継続して取り入れてきた成果だと考えます。また、「エネルギー」領域の電気の回路の作り方や電磁石の強さが巻数によってどう違うかといった問題において、大きく全国正答率を上回っていました。実験を通して、児童が実感を伴った学びをしている成果だと言えます。課題は、「粒子」領域の水の温まり方、蒸発、結露についての問題で全国正答率を下回っていたことです。実験・観察した結果を考察し、正しく理解させていく必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 協働的に学び合う中で問題解決ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結論を導く話し合い活動を通して、自分なりのまとめ方ができる児童の育成をめざします。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。